

## 平成 22 年度第 3 回中原区区民会議運営部会会議録

○日 時 平成 23 年 2 月 15 日（火） 午前 10 時～午前 11 時 10 分

○場 所 中原区役所 4 階 405 会議室

○出席者 鈴木部会長、杉野副部会長、板倉委員、川連委員、松本委員、・房委員  
（事務局）山崎副区長、企画課：綱島課長、織裳担当係長、小木曾主任、橋本職員  
（行政関係者）豆白こども支援室長、千葉こども支援室担当課長、  
堀田地域保健福祉課担当課長

○傍 聴 なし

○報 道 なし

○次 第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

⇒松本委員を選任

3 議題

### （1）第 4 回中原区区民会議の運営について

○事務局から資料 1 により、1 月の本会議で委員から出された意見を紹介。資料 2 により第 4 回区民会議の次第案を説明。本会議の中で、地域での子育て応援に関する活動事例を紹介していただく方について事務局案を提示。区民会議でも子育て分野で活動されている方もいるが、区民会議委員以外で事例紹介をいただくことを基本に候補者を挙げたことを説明。

（主な意見）

・ ママカフェについて、どのような時間帯で実施しているのか。どのような方が参加しているのか。（・房委員）

⇒ 日時は、第 1 木曜日と第 3 木曜日に、市民ミュージアムのレストランで午前 10 時から 11 時 30 分までの一般のお客様が少ない時間に実施している。第一子目の母親が子どもと一緒に参加されていることが多いように感じる。高津区から参加している方もいる。（松本委員）

・ 事例紹介するゲストの所要時間はどれくらいを見込んでいるのか。（板倉委員）

⇒ それぞれ 10 分程度を予定しており、合計 20 分程度を見込んでいる。（事務局）

⇒ 事例紹介のゲストについて、事務局案を了承

### （2）課題調査部会委員の改選・選任について

○事務局から資料 3、4 に基づき課題調査部会の設置目的等について説明。新たに審議されることとなる課題「地域における子育て応援体制づくり」に合わせ、委員を改選し、選任することについて説明。

⇒ 新たな審議課題に合わせ、委員を改選・選任することが決定した。新たな委員は、

これまでに部会委員に選任されていない委員を考慮しながら、子育ては様々な分野に関係する課題でもあり、委員の選出分野にとらわれることなく選出することとした。

### (3) 第3期中原区区民会議中間報告書構成案について

- 事務局から、資料5と第2期中原区区民会議中間報告書により、第3期の中間報告書の構成案について説明。第2期の中間報告書と同様に写真や説明資料などを使用して、文字だけではなく、親しみやすい報告書を目指したいと説明。

⇒ 事務局提案を了承

### (4) その他

- 事務局から、資料6に基づき、平成23年度第1回の区民会議の日程について説明。  
⇒ 3月の本会議で、7月15日（金）及び19日（火）の15時からを候補日として提案することを決定した。

- 次のテーマ「地域における子育て応援体制づくり」に関連しての意見交換
  - ・ 中原区全体でマンションが増えてきており、町内会に加入していないマンションも多くなっている。また、戸建の世帯でも親御さんの世代では町内会に加入していたが、次の世代では町内会に加入しない世帯も増えてきている。町内会に加入していない世帯では、回覧板も回らないため、子ども会の存在も知らないこともある。また、回覧板を隣人世帯のポストに入れ、声を掛けることも無く回す人が増えてきており、地域でのきずなづくりが出来なくなっている。また、マンション加入の人は管理組合なども輪番で行っており、町内会に加入した場合も役員をやりたがらない傾向がある。町内会としても対策を立てる必要があり、良い知恵があれば教えて欲しい。（・房委員）
  - ・ 7区区民会議交流会でも町内会・自治会のことを課題として取り上げたいという区が多かった。（鈴木部会長）
  - ・ 町内会が、子どもを多く集めるイベントなどを企画できれば、多くの方が積極的に町内会に参画するようになり、町内会のあり方も変わってくるかもしれない。町内会・自治会は、お祭や盆踊りなどを行っているだけだと考えている人も多いが、民生委員・児童委員、廃棄物減量指導員、青少年指導員、体育指導委員など、多くの行政・関係団体へ委員を推薦しており、地域福祉向上への貢献度が非常に高いと考えている。（・房委員）
  - ・ 町内会に加入しないことはデメリットが多いことを、行政も含めアピールしていく必要がある。町内会長にお願いしていることも沢山ある。（杉野副部会長）
  - ・ 子どもが次世代を担う。子育てを支援することが一番大事だと考えている。ベビーカーに子どもを載せている親御さんに、機会があるごとに声を掛けるようにしている。声を掛けることで人間関係づくりのきっかけになる。（・房委員）
  - ・ 「こんにちは赤ちゃん訪問員」の研修でも学んだが、自分と関わりがない人と話すの

を嫌がる人が多くなっている。人と人との付き合いが分からなければ何事も始まらない。社会全体で「お互い様」という気持ちを分かるように教えていかないといけない。

(杉野副部会長)

- ・ 阪神・淡路の大震災の後、ボランティア活動が注目された時期もあったが、時間が経過し、最近では「無縁社会」という言葉もクローズアップされるようになっている。「子育て」という分野も範囲が広いが、区民会議としてなんとか取り組みを行ってきたい。(・房委員)
- ・ 子育て支援といっても、サービスを提供するばかりであると、子育てする主体が依存型になってしまう心配もある。(松本委員)
- ・ 自助・共助・公助という言葉があるが、「共助」の精神が一番大切である。(・房委員)
- ・ 町内会に加入していたマンションが、管理組合の一人の「町内会費が無駄である」という強い意見で町内会を脱会した例があると聞いた。商店街でも、新たに開店した場合でも商店街に加入しない店が増えてきている。人と人とのきずなづくりという意識が薄れてきている。(川連委員)
- ・ 「防災」「子育て」というテーマを設定して議論をしていくが、これは議論をしやすくするための頭出しの意味もあると考えている。「区民会議が何ができるか」を考え、それを実践することで、区が良くなり、市が良くなっていけば良いと考えている。自分達が出来ることを第一に考え議論していきたい。(鈴木部会長)

—午前 11 時 10 分 終了—

以上要約のみ